

「大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学 連合小児発達学研究所」開設にあたって



巻頭言

遠山 正 彌*

On the occasion of establishment of United Graduate School of Child Development, Osaka Univ, Kanazawa Univ and Hamamatsu Univ, Sch of Med.

Key Words : 子どもの心の障がい, 新研究科・センター

私は学生時代から脳の物質の研究を長年続けており、「心と脳」の間には埋めるに埋められない大きな溝がまだ存在すると思い、心の問題には無関心でした。そんな私が「子どものこころ」の問題に関心を持ち始めたのは「大阪教育大附属池田小学校の事件」に係る保護者の1人が教室員であった関係でしょうか。親御さんが「医者に相談しても心理、教育のことはよくわからないとの返事が返り、心理士に相談したら病気と教育のことは専門外といわれ、学校の先生に相談しても病気と心理のことはちょっと、といわれ子どもの心の問題を誰に相談したらよいかわからない」と大変動揺しておられることを耳にしたときです。これを機に精神疾患発症の分子基盤の解明に少なからず手を染めている自分として何かできることはないか、と感じ始めていました。

親御さんの悩みを考えるとまず浮かぶことは医学、心理学、教育学に造詣の深い現場を統括できる人材を育成する必要性です。古くからの仲間の森則夫浜松医科大学精神科学講座教授とともに、そして経済諮問会議民間議員の本間正明先生、文科省徳永保審議官（当時、現高等教育局局長）の絶大なご支援を受け、平成18年度より文科省連携融合事業として大阪大学・浜松医科大学「子どもの心の発達研究センター」が設置されました。このセンターを軸に臨床医学、生命科学、画像・疫学などの医科学に、

社会心理学・教育支援学をも統合した学際的新領域を創成し、従来主として社会心理学の研究対象であった子どもの心の問題を医学的見地より理解するための基盤整備が始まります。このセンターからはセロトントランスポーターを指標とする自閉症の新規画像診断法の確立、精神疾患発症の基盤に神経回路の未熟が存在することの証明など多くの先端医学の成果が輩出しました。それと同時にセンターは自治体（大府市、浜松市、堺市、池田市）と協力し、発達障がいの子どものための教育、支援体制などにつき、より良いシステムの構築を目指す社会貢献のプロジェクトもスタートしました。平成20年には金沢大学が合流し、来年度には千葉大学、福井大学が合流予定です。

早期に発達障がいの療育を開始すればするほどその効果が上がることはよく知られています。そこで新センターでは2歳児での療育開始の運動（Age2）を開始します。また遺伝子、脳画像、血液データなどを参考にしつつ胎児時期より思春期までの発達の様態を緻密に追跡することにより発達異常の危険因子や早期兆候を見出す出生コホート研究、療育効果を判定し、よりよい療育法の確立を目指す教育コホート、発達障がいのこどもの優れた才能を引き出すギフティド研究、子どものうつ病に対する対策を講じるプロジェクト、養育者支援、出生時に危険因子の有無を判定できる臍帯バンクプロジェクトもスタートし各センターのデータの共有化をはかります（図1）。また発達障がいの子どものための保育園から高等教育までの教育をスムーズに進めるため池田市で子どものカルテ作り（専門家によるアセスメントを受けた個別教育プログラム；IEPの作成）をスタートします。

センターがこのような社会貢献の役割を担う車輪とすれば研究科は高度な人材育成を目指すもう片方



* Masaya TOHYAMA

1947年4月生
大阪大学医学部卒業（1972年）
現在、大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学 連合小児発達学研究所 研究科長（専任）大阪大学医学系研究科・教授（兼任）医学博士
TEL：06-6879-3220
E-mail：mtohyama@anat2.med.osaka-u.ac.jp

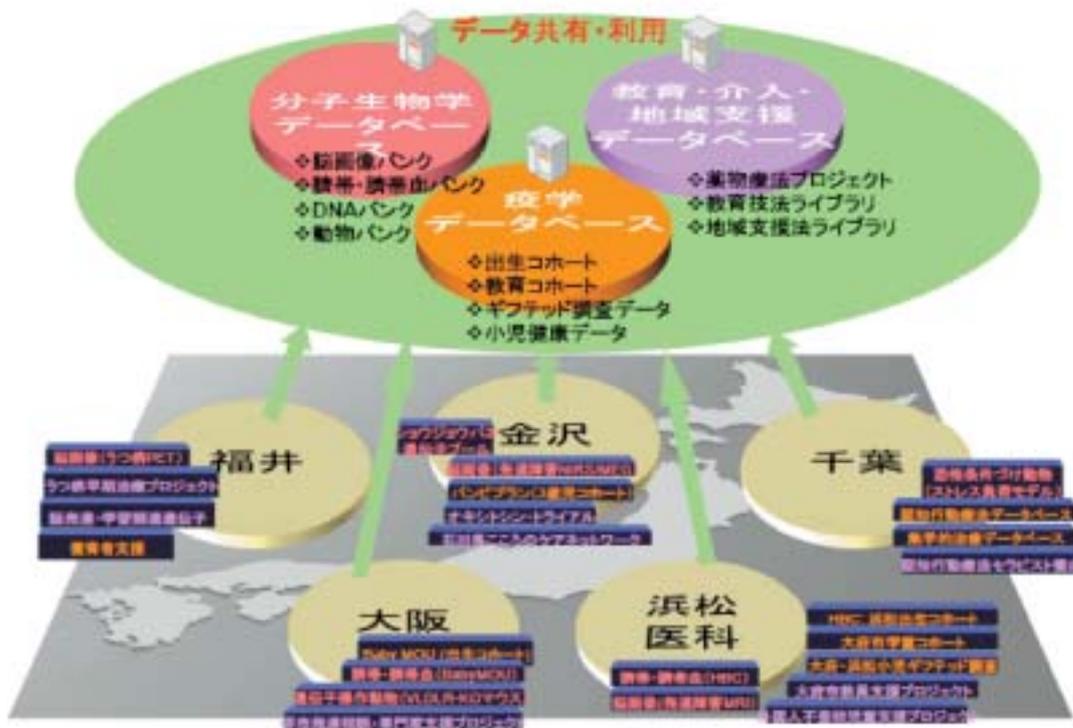


図1

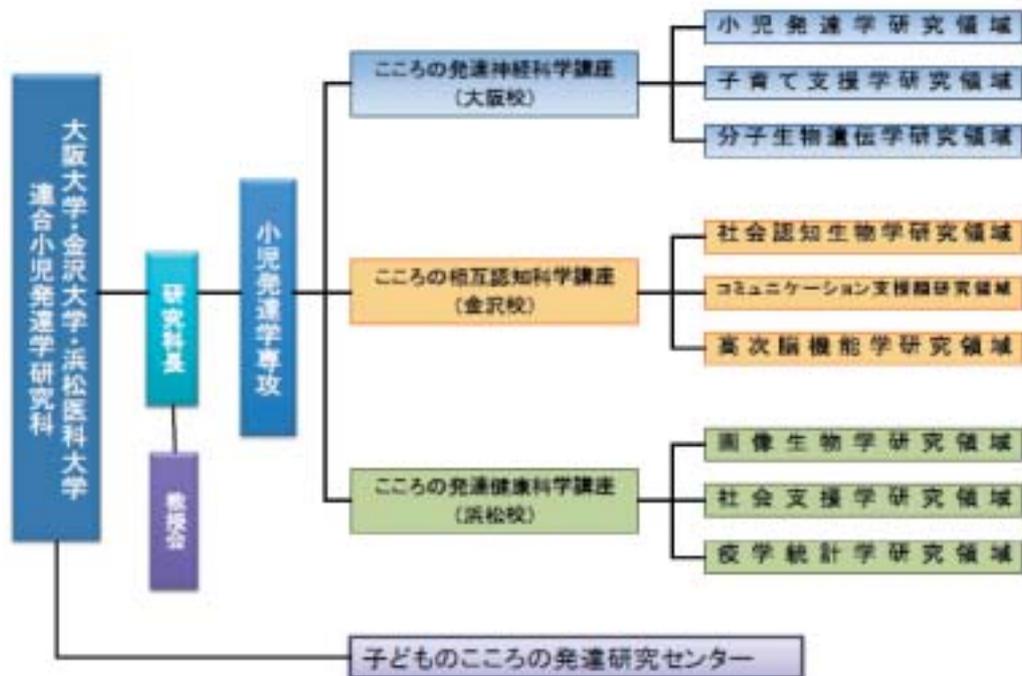


図2

の車輪です。センターの社会貢献活動が評価され、平成21年度より大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所がスタートしました(図2)。

子どもの心の障がいの克服には既存の領域を超え、脳科学、医学、心理学、教育学の統合的知識と実践能力を持ち、社会活動のリーダーとして活躍する人

材の育成が不可欠です。新研究科ではこのような人材の育成を目指します。平成24年度には5大学よりなる研究科をめざします。

新研究科、センターの発展とともにこれらを支える支援組織(社団法人子どもの発達科学研究所)も篠原祥哲監事のサポートで立ち上がることとなりました。Age2キャンペーン、現場で働く心理士、医師、教育者のレベルアップを図る「心の発達育成士(仮称)」の資格認定、発達障がいの子どもたちとスポーツ、芸術などを通じたふれあいの場の設定など様々な支援活動、信頼できる病院のネットワークづくりなどを企画しております。皆様方のサポートを心からお願いするものです。

(入会、サポートのご希望は

一般社団法人子どもの発達科学研究所
〒530-0001

大阪市北区梅田一丁目1番3-267

大阪駅前第3ビル267号

TEL: 06-6341-5545

FAX: 06-6347-1525 まで)

子どもは少子化の今、貴重な国の財産です。しかも発達障がいは子どもの責任でも、親の責任でもありません。治り得る病気として社会全体が様々なサポートをし、原因を科学的に解明し、適格な療育体制を作り、社会人として活躍できる場を提供することが我々、大人の責務ではないでしょうか。

